

(その 113) つながって継って葬送することができました (2015.2)

1月5日夕方渡田山王町に住むSさんの孤独死が発見されました。

発見者はいつも弁当を買いに来るのにしばらく来ないので不信に思い自宅を訪ねた弁当屋さんです。部屋には暖房と電気も灯っているのに鍵がかかっており声をかけても反応がないので、大家さんを探したが分からず警察に届け、警察より大家さんを探してもらい鍵を開けてもらったところ孤独死が確認されました。

「Sさんは高知県生まれで田舎には寝たきりのお父さんがいますがいとこが世話をしているため、葬儀のため誰も上京もできない。川崎でお願いします」

との相談を以前Sさんと交流のあった高知県議の中根さんから所長が受けました(警察からお父さん経由で県議に連絡)

偶然にも所長は孤独死したSさんをはじめ大家さん、不動産屋さん、高知県議の中根さん、火葬をお願いする“こすもす”等すべての人と顔見知りだったので絡みそうになった糸がスムーズに解けました。

大家さんに頼まれた部屋の片づけも終わりました。

13日に火葬を行いお父さんの願いで高知のお墓に入れてやりたいとの希望が出されましたが、だれもお骨を引き取りに上京できないとの事で困っていたところ、中根高知県議の夫が16日から18日まで東京に出張する事がわかり18日の朝、所長が川崎市役所前で中根さんに会い引き渡しました。

「Sさんのお骨は無事お母さんのお墓に納めることができました」と連絡がありました。